

SEA TRIAL

YOU'LL LOVE IT

GREENLINE 39

2008年スロベニア生まれの「GREENLINE(グリーンライン)」。
エココンシャスをメインテーマに、ハイブリッドのパワーシステム採用やソーラーパネルの積極的な採用で、
持続可能なマリタイムを提案するリーディングブランドとしてその存在感を示している。
その最新モデル「GREENLINE 39」が国内デビューを果たした。
自然環境の美しい「Green Jewel」の国で生まれたエコクルーザー、サステナブルな次世代のメッセンジャーでもある。

text: Kenji Yamazaki photo: Makoto Yamada
special thanks: OKAZAKI YACHTS <http://okazaki.yachts.co.jp>





ソフトな波当たり、20ノットでロングクルージングしたい衝動に駆られるほど安定感がある。ステアリングはアナログモードの重さを感じるが、切り込んでいっても船体は常に安定した姿勢を保つ。ハルは高効率高剛性を求めたレースヨット同様のバキュームインフュージョンハイブリッドハル。走れば走るほど高バランスと頼もしさが伝わる。



ルーフのソーラーパネルが目印のエココンシャスクルーザー「GREENLINE」 速すぎず遅すぎない、人生を愉しむスピードが乗る人のマリタイムを変える

90を超えるアワード実績をもつスロベニアのヨットデザインオフィス「J & J Design」が、2008年に革新的な33フィートのドロ잉を開始した時が「GREENLINE YACHTS (グリーンライン)」の創世となる。その名称の由来と共にスロベニアを知りたくなる。

スロベニア共和国は北にオーストリア、西にイタリア、東にハンガリー、南にクロアチアという旧ユーゴスラビアを形成した中央ヨーロッパの歴史深い国だ。1991年、共和国として独立。内陸国と思われがちだが、アドリア海の北東奥トリエステ湾に面する一画を持ち、想像以上の海洋国であり海運、造船に長けた歴史を持っている。KoperやIzolaは歴史的な美しいリゾートとして著名だ。



内陸は河川や湖が多く、マリレジャーの豊かな文化を持っている。アルプスと地中海アドリア海の間にある地勢的な環境は芳醇な森林と山岳、河川を育み、その自然の美しさから“Green Jewel”とも呼ばれ、国を挙げて自然環境保全に努めている。最近ではオランダの非営利団体 Green Destination が世界初の「Green Country」と認定し、National Geographic Traveler Magazine は「世界で最も持続可能な国」として認め、世界的にも環境保全先進国であることを証明している。「GREENLINE YACHTS」のオーナー Vladimir Zinchenko はサーフィンで訪れたバリ島でプラスチックごみの問題に直面、海洋ゴミをアクセサリに変える 4Ocean 運動をサポートすることを決め活動を続けている。

「GREENLINE」のファクトリーはオーストリアに近い高原都市 Zapuze。近代的なヤードは、穏やかな環境下で自然環境保全を念頭にボート製造を行うリーディングカンパニーの証でもある。

現行全ての NEO シリーズと GREENLINE シリーズは、ハイブリッドの選択が可能だ。アウトボード2基掛けの NEO シリーズはオープン、ハードトップ、クーベの36フィート艇。BMW i3 からの EV ユニット搭載の選択もある。GREENLINE シリーズは 33、39、40、最新の 45FLY、48クーベ、48FLY レンジの6モデルには内燃機関、ハイブリッド、EV モードのラインアップが揃い、パワーソースの選択可能だ。その上に OCEANCLASS 58、65、110 がプロダクトされる一大ボートブランドとして急成長を続けている。

*

横浜ベイサイドマリーナビジターバース。目の前にいる「GREENLINE

39」。瀟洒な直線ラインが形作る清廉で清潔なフォルム。ハルのキャラクターラインを主張するブラックアウトされた舷窓の流れ。どこかファンタジーの世界が似合うカタチ。ワイド&ロー、今までに類似のない造形美を見せる。直立したステム、しっかり段差を刻むチャイン。船底にはキールを持つ。デザインはもちろん「J & J Design」、JEANNEAU や BENETEAU などフランス製セールボートを多く手がけているせいだろう、何処かセーリングボートの香りが漂う不思議。



ウィンドウはフロントから両サイドにかけワイド&ビミー、採光豊かなグリーンエリアが広がる。キャビンのルーフはフロントから後部に行くほどビームいっぱいになり、サイドピラーでガンネルと結合し、モダンなデザインにクラシカルな雰囲気を導き出している。高いガンネルとサイドピラーはウォークアラウンドのキャットウェイをエレガントに演出している。更にルーフはアフトコクピット



ウィンドウの広さが解放感を生みだしている。ヘルムに座ると360度の視界が確保され一時も早く海に出たい衝動に駆られる。スライド式のサイドウィンドウは極めて便利。右舷着岸、バウやアフトへのイージーアクセスが約束されている。

トエンドまで伸びきり、サンシェイド効果をもたらすシェルテイドコクピットを作り上げている。右舷サイドを広くとったウォークアラウンドのデッキ周りや、乗り降りに便利なコクピットサイドドア等、カスタマーコンシャスな仕掛けがいたるところにある。トランサムが電動で後部を開き海へのイージーエントリーを約束するオープンコクピットプラットフォームなど、楽しく細やかな工夫が施されている。

コクピットからサロンに。チーク調のフローリングに淡いベージュとホワイトを基調とした360°ビューの明るいサロンは気軽さと解放感に満ちている。ファニチャーなどはサロンやステートルーム含めて、ホワイトオーク材が清廉な空間演出に一役買っている。1枚ガラスのフロントウィンドウに広々としたサイドウィンドウがもたらす視界の広がり豊かな採光が、自然な空間を作り上げている。

サロンに入るとすぐにポートサイドのギャレーカウンターに気づく。スターボードサイドには家庭用の大型冷凍冷蔵庫が存在感を示している。

コクピットとの間のウィンドウを跳ね上げれば、サロンとコクピットは一体化し、広々としたエンターテイメントスペースとなり、オープンギャレーがファミリーや親しい友人たちとのマリタイムに楽しい威力を発揮する。ギャレーの先にはポートサイドにコの字ソファとテーブル、スターボードサイドはAVユニット収納のストレージ、その前方にヘルムステーションがある。

横長のコンソールにはオートパイロット計、GPSモニター、エンジンモニターが並ぶ。ウッドステアリングの右にはヤンマーエンジンコントローラー、バウ&スターズスラスタースティック2本、更にSIMARINEのPICOモニターが位置する。バッテリーのみならずの頼もしいマルチ管理モニターだ。ルーフには電動サンルーフが左右2面用意されている。タンデムのキャプテンシート右には幅広のスライドウィンドウがありスターボードのキャットウェイへイージーアクセスできる。キャプテンの導線が良く考えられている。右舷着岸には至極嬉しい。パウデッキにはサンベッドが待ち受け、ピミニットップをセットすればサンシェイド付きとなる。



なんのてらいもなく明るくカジュアルなサロン。ポートサイドにギャレー、スターボードに冷蔵庫や電子レンジが用意され使いやすさは抜群。

ヘルムのポートサイドから前方にコンパニオンウェイを降りる。ロアフロアはバウサイドとポートサイドから入るミジップの2か所にステートルームがある。フォアキャビンのVパースベッドは移動可能でキングサイズベッドに変身可能だ。このキャビン、上部側面と前面のウィンドウからはパウデッキの足元が見える、視界と共に採光に優れたアイデアが生かされている。ロアフロアにパウダールームは1か所、分離されたシャワーブースとヘッド&パウダースペースが用意されている。ミジップのツインベッドルームはカジュアルな雰囲気醸し出している。子供たちに開放してやりたいスペースだ。

*

小春日和の横浜ベイサイドマリーナ。晴天、気温17℃。北西風3m/s。八景沖うねり0.5m。強力な前後スラスタのおかげでイージーな離岸が約束される。パワーユニットはYANMAR 8LV-370psの1基掛けだ。港内デッドスロー 550rpm-3.5ノットで抜ける。ヘディングは観音崎沖。見通し線上にセールを上げたヨットが2艇、本船は数少ないが1艇アンカーを下

ろしている。温かい晩秋の太陽が海面をきらめかせている。

スロットルを入れていく。滑らかな加速が始まる。フラップを作動させないままで視界を遮るバウアップは起きない。スムーズな加速が続く。800rpm-5.0ノット-燃費1.8L/h、1,000rpm-5.9ノット-10.9L/h、1,200rpm-6.7ノット-4.5L/h、1,400rpm-7.6ノット-14.1L/h、1,600rpm-8.5ノット-15.7L/h、1,800rpm-9.2ノット-13.5L/h、2,000rpm-10.4ノット-19.2L/h、2,400rpm-13.3ノット-30.4L/h、2,600rpm-15.4ノット-35.5L/h、2,800rpm-17.4ノット-41.7L/h、3,000rpm-19.1ノット-47.0L/h。ステアリングはアナログモードの重さを感じるが切り込んでいっても常に安定した姿勢を保つ心強さがうれしい。ハルは、船底中央部に小さなキールを持つ高効率高剛性を求めたレースヨットのハル同様のバキュームインフュージョンハイブリッドハル。走れば走るほど高バランスと頼もしさが伝わる。そのままMAXまでスロットルを入れていく。



トランサムドアを解放するとコクピットは広がり海がさらに近くなる。ギャレーはウィンドウを跳ね上げることでアフトコクピットと一体化しオープンカフェに早変わりする。楽しい設えだ。サロン前方ポートサイドにはラウンジが用意される。



床下にはYANMAR 8LV370エンジンが潜んでいる。ハイブリッド仕様ではないため床下は広々。ルーフにはソーラーパネルが貼られ1.2kwの電力を発電しバッテリーに供給している。





3,200rpm-21.1 ノット-54.1L/h、3,400rpm-22.8 ノット-63.1L/h、3,600rpm-25.2 ノット-73.4L/h。25 ノットでの安定感に心強いものがある。このハルなら2基掛けであと10ノットオーバーも可能だろうとほくそ笑んでいた。エココンシャスな GREENLINE に似合わない思い付き、即払拭した。オートパイロットでヘディングを決め気ままにクルージングを楽しむ、それがいい。

ルーフにはソーラーパネルが貼られ、1.2kwの電力を発電しバッテリーに供給している。リチウムイオン電池を搭載するハイブリッド仕様ではないが、充分ウィークエンドのマリタイムに対応している。ソーラーパネルと大容量バッテリーによって大型冷凍冷蔵庫、電子レンジ、IHコンロ、エアコンが陸電やジェネレーターに頼らずウィークエンドの寄港先で使用できる。なんとエアコンはダイキン欧州製、室外機はコクピットのストレージに



密やかに隠れている。

このフネがあれば東京湾内のみならず相模湾、伊豆七島、駿河湾、いや瀬戸内海、九州、沖縄までクルージングの視野に入るだろう。まるで同サイズのセーリングボートのように。航海レンジは1,000rpm-5.9 ノット-1,239Nm、1,600rpm-8.5 ノット-514.9Nm、2,000rpm-10.4 ノット-341.3Nm、2,600rpm-15.4 ノット-273.3Nm、3,000rpm-19.1 ノット-256.0Nm、3,200rpm-21.1 ノット-245.7Nm、3,600rpm-25.2 ノット-216.3Nm。ロングレンジもお手のものだ。

おだやかな時間を過ごしたい若いファミリー、気の合った仲間たちとのソサエティを大切にしたい人たち、じっくりと海を楽しみたいオールドソルトにもこの「GREENLINE 39」はお似合いかもしれない。きらめき輝く海はそこにあるから。P.B.



フォアキャビンのサイドウィンドウに注目。上部側面と前面のウィンドウからはバウデッキの足元が見える。視界と共に採光に優れたアイデアが生かされている。ミジップの2ベッドのルームはヨットのクォーターバースのよう。サロンのラウンジソファ前方のデスクからクォーターバースのソファが見降ろせる。子供たちの様子をうかがう仕掛けかも。



GREENLINE 39

全長 11.99 m
 全幅 3.75 m
 喫水 0.90 m
 重量 7.50 ton
 エンジン YANMAR 8LV-370
 最高出力 370 HP
 燃料タンク 700 L
 清水タンク 400 L
 問い合わせ先 オカザキヨット
 TEL: 西宮 0798-32-0202、横浜 045-770-0502
<http://okazaki.yachts.co.jp>

